

TOKOROZAWA: PAST AND PRESENT IN ART

市制施行70周年記念事業

とくろざわ
アートの潮流

TOKOROZAWA: PAST AND PRESENT IN ART

市制施行70周年記念事業 ところざわ アートの潮流
The 70th Anniversary Memorial Project of Tokorozawa City
TOKOROZAWA: PAST AND PRESENT IN ART

情報市場ほか

2020.11.15 ^{SUN} — 12.6 ^{SUN}

戸谷成雄
坂牛幹雄
遠藤利克
多和圭三
多和英子
伊藤 誠
牛島達治
鞍掛純一
小畑多丘
桑名紗衣子

ザ・スクエア

2020.11.27 ^{FRI} — 12.6 ^{SUN}

山路真護
上村次敏
中山正樹
高見澤文雄
祐成政徳
尹 熙倉
志水児王 + 飯田博之
李谷圭章
加茂 昂
幸田千依
小穴琴恵
森田可子

会場：所沢市民文化センター・ミュージズ

主催：所沢市、公益財団法人所沢市文化振興事業団

関連イベント：

トークイベント「所沢、アートの潮流をめぐって」

2020.11.28 ^{SAT} 14:00 — 16:00

出演：伊藤 誠、小穴琴恵、加茂 昂、前山裕司、森 啓輔

会場：所沢市民文化センター・ミュージズ キューブホール

Boat 装着イベント

2020.11.27 ^{FRI} 14:00 —

会場：所沢市民文化センター・ミュージズ 伊藤誠展示作品前

空の風車計画 プロジェクター投影イベント及びライブ配信

2020.12.5 ^{SAT} 17:00 — 18:00 (ライブ配信は不定期)

2020.12.6 ^{SUN} 17:00 — 18:00 (ライブ配信は不定期)

会場：所沢市民文化センター・ミュージズ 牛島達治展示作品前

ごあいさつ

この度は、「ところざわアートの潮流」
にお越しいただき誠にありがとうございます。

所沢市では、市制施行70周年及び市民文化センター・ミュージズのリニューアルオープンを記念し、市内でのアートの変遷を展望する初めての展覧会「ところざわアートの潮流」を開催する運びとなりました。「航空発祥の地」と呼ばれる所沢では、豊かな自然と都市の発展を源泉に、さまざまな文化が花開いてきました。本展では、市が所蔵する作品や貴重な資料をまじえ、山路真護ら画家たちの戦前・戦後の活動や、1978年に開園した所沢航空記念公園での野外美術展、90年代の野外彫刻展などを紹介いたします。

また、所沢を拠点に活躍する20名(組)の現代アーティストの作品展示も、大きな見どころです。2008年から継続されている自主企画展「引込線」や、国の重要文化財である柳瀬荘での日本大学芸術学部のアート教育プロジェクト、市と姉妹都市提携を結ぶ韓国安養市との作品交流展をはじめ、多岐にわたるアーティストたちの活動は、今後さらなる広がりが期待されることでしょう。お越しいただいた皆様にも所沢の過去と現在が交差する「アートの潮流」をお楽しみいただければ幸いに存じます。

最後になりましたが、本展を開催するにあたり、作品展示にご協力くださったアーティストの方々に始め、多大なご尽力をいただいた関係者の皆様に厚く御礼を申し上げまして、結びの言葉といたします。

令和2年11月15日 所沢市長 藤本 正人

1 潮流をたどる

Trace the history of Tokorozawa

1911年、日本初の飛行場、所沢飛行場が完成しました。所沢は飛行機に憧れる若者たちの聖地となります。

伯爵家に生まれた澤宣治（1897–没年不明）は、所沢飛行場で滋野清武男爵らに師事して、ファルマン式複葉機、ルンブラー式単葉機を習得しました。1913年夏、16歳のときに初飛行、この時名前を「青鳥」とします。澤青鳥は1924年、前衛芸術運動「マヴォ」に参加しましたが、後年はソ連航空機とグライダーの専門家として執筆を行いました。

所沢に生まれた山路耆太郎（眞護／1900–1969）は所沢工業学校を卒業後、京都絵画専門学校に学びます。卒業後、所沢飛行場に勤務した山路は、1922年「三科インデペンデント展」に飛行中の印象を描いた《トンソー》を出品します。また、二科展の搬入を伝える新聞は、落選した山路の作品に注目しています。「所沢航空部の迷彩色研究家山路一太郎（原文ママ）は『連続ルーピングの印象』と題する可なり大きなものを出した。八月初めサルムソン機に乗って秒速五十米突（メートル）、高さ五百米突の航空から三回の連続宙返りをした際、その地上と空の印象と心持を後期印象派の手法で表現したもの」（朝日新聞1922年9月2日）

1937年には、イギリス国王ジョージ6世の戴冠式を祝うためロンドンまで飛行した朝日新聞社「神風号」の機体塗装デザインを担当しました。戦時中は『航空朝日』の表紙を担当、戦後は『婦人朝日』の表紙や絵本の挿絵などで活躍しました。また、1969年から就航した全日空機のレオナルド・ダ・ヴィンチの素描を基にしたマークのデザインでも知られ、生涯飛行機と縁のあった画家です。

1967年から亡くなるまで所沢に住んだ上村次敏（1934–1998）は、植物が増殖するような強烈な色彩の水彩画で評価されます。武蔵野美術学校在学中の1959年、シェル美術賞展で3等を受賞。1963年「第3回バリ青年ビエンナーレ」では、美術評論家の瀧口修造によって、宮脇愛子、工藤哲巳らとともに選出されました。



所沢飛行場絵葉書
Postcards of Tokorozawa Airfield
絵葉書 | 個人蔵

澤青鳥 SAWA Seicho
1897年東京都生まれ
没年不明

《コンストルクチャ》『マヴォ』第1号掲載（複製図版）
“Construction” from the Magazine MAVO #1
1924

『新露西亜語講話』著：中村莊太郎 発行：日露芸術協会（義丁）
Book New Lecture on Russian Language (Cover Design)
1927 | 書籍 | 個人蔵

『グライダーの研究』
Book A Study of Glider
1934 | 書籍 | 個人蔵

山路眞護 YAMAJI Shingo
1900年埼玉県生まれ
所沢町工業学校卒業、京都市立絵画専門学校（現京都市立芸術大学）中退
1969年没

巴里
Paris
1946 | 油彩、カンヴァス | 91.2×116.9 cm | 所沢市

寂寥
Loneliness
1956 | 油彩、カンヴァス | 91.3×116.2 cm | 所沢市

王様歯医者へ行こう
King, you should go to a Dentist
1962 | 油彩、カンヴァス | 116.4×91 cm | 所沢市

《Illustrated Map of Kyoto》の原画
Original Drawing for “Illustrated Map of Kyoto”
1964 | インク、紙 | 136×136 cm | 所沢市

山路耆太郎（眞護） YAMAJI Ichitaro (Shingo)
連続ルーピングの印象（複製図版）
Impression of Successive Looping
1922

「神風号」（機体塗装デザイン）
Kamikaze (Aircraft) (Paint Scheme Design)
1937 | ブラモデル | 個人蔵

『亜欧記録大飛行「神風」画報』
第一、二輯（機体塗装デザイン）
Pictorial Magazine of the Flight from Asia to Europe by Kamikaze, #1 (Paint Scheme Design)
1937 | 雑誌 | 個人蔵

『航空朝日』昭和17年11月号（表紙デザイン）
Aviation Asahi, November 1942 (Cover Design)
1942 | 雑誌 | 個人蔵

『航空朝日』昭和18年11月号（表紙デザイン）
Aviation Asahi, November 1943 (Cover Design)
1943 | 雑誌 | 個人蔵

『航空朝日』昭和18年12月号（表紙デザイン）
Aviation Asahi, December 1943 (Cover Design)
1943 | 雑誌 | 個人蔵

『航空朝日』昭和19年5月号（表紙デザイン）
Aviation Asahi, May 1944 (Cover Design)
1944 | 雑誌 | 個人蔵

全日空マーク（デザイン）
ANA Logo (Design)
1952頃/1958文字変更 | シール | 個人蔵

上村次敏 UEMURA Tsugutoshi

1934年福岡県生まれ

武蔵野美術学校（現武蔵野美術大学）卒業

1998年没

ウーヴル B

Work B

1962 | 水彩、紙 | 78.4×109.2 cm | 所沢市

ウーヴル D

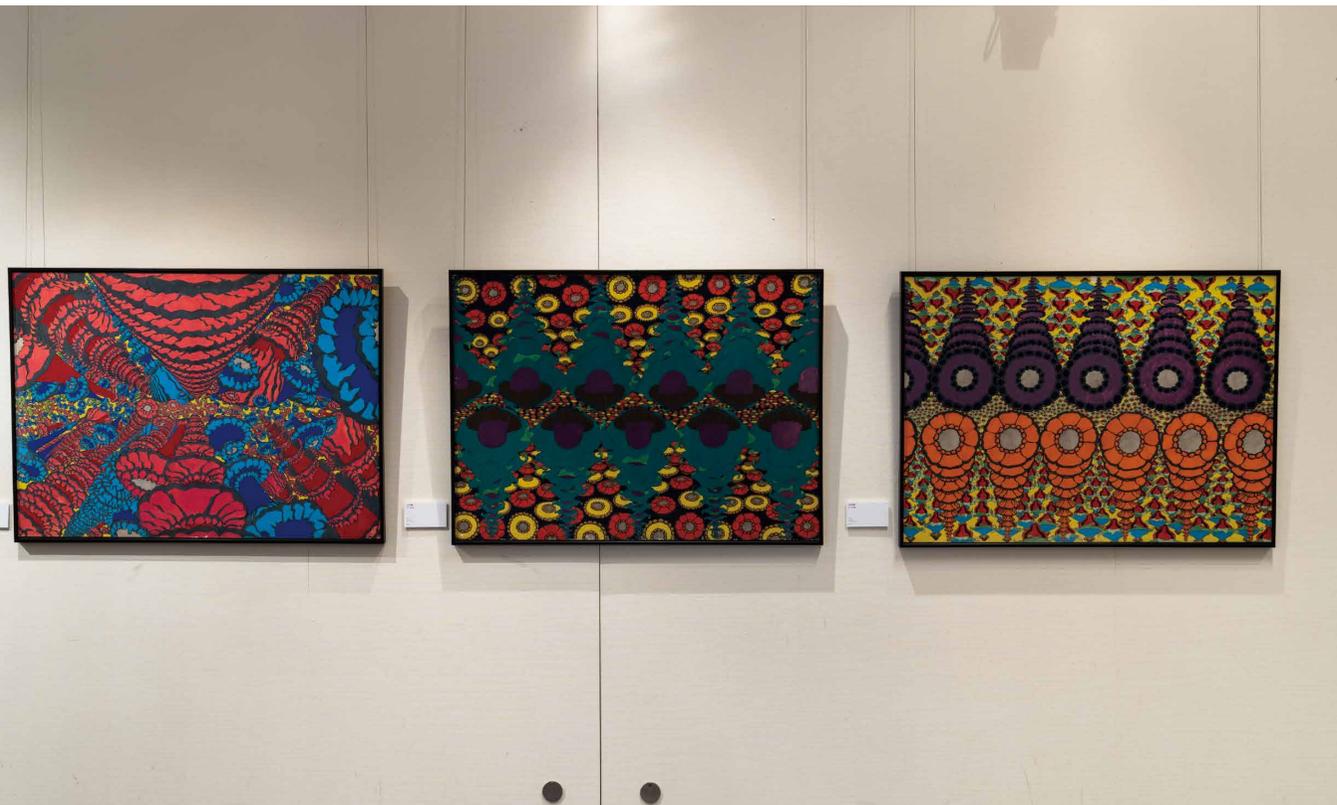
Work D

1962 | 水彩、紙 | 78.4×108.5 cm | 所沢市

ウーヴル E

Work E

1962 | 水彩、紙 | 78.4×108.7 cm | 所沢市



2 1970年代から90年代の所沢

Tokorozawa in 1970s to 1990s

所沢市の総人口が20万人を超え、中核的都市として市が発展していく1970年代。市内では、日本大学芸術学部彫刻科出身のアーティストを中心とした自主企画展が、西武園（1973年）と滝の城址公園（1974年、75年）で開催されました。公園という日常の空間での作品展示は、美術館のような制度と切り離された「野外」に可能性を見出し、「生活の場の風景」としての彫刻を生み出していこうとする、若いアーティストたちのエネルギーを強く感じさせるものとなりました。

また1970年代は、基地が返還され、その跡地がさまざまな施設に整備されていく時代にあたります。1978年に一部開園となった所沢航空記念公

園は、西武園、滝の城址公園に続き、アーティストにとって野外での新たな作品発表の場となっていきます。同年に開催された第1回展以降、所沢野外美術展は1980年代まで継続して行われていくこととなりました。

1980年代のアートの動向においては、西武百貨店所沢店ワルツが、重要な位置を占めます。所沢駅西口の再開発に伴い、1986年にオープンしたワルツ全館を会場とした「ホット・ハウス エキジビション」では、多様な情報の集合体である百貨店を舞台に、ジャンルを超えたさまざまな作品が、「コンテンポラリー（現代）」を表現するものとして展示されました。所沢野外美術展や、川俣正（1953-）らが米軍ハウスの借家で1983年に行った「SLIP IN 所沢」など、1980年代にはアーティストや商業施設が主体となる活動が、交錯していきました。

1990年代は、市による公的な文化活動が数多く行われた時代といえるでしょう。1993年の所沢市民文化センター・ミュージアの開館に加え、同年には埼玉県県の「彩の国元年さいたま芸術文化祭」に参加、「野外彫刻フェスティバル」が開催されます。所沢航空記念公園での野外彫刻展と、「石彫教室」（1994年以降、「石の彫刻スクール」）は、新しい文化の創造と人間性豊かな街づくりを目指し、1997年まで計4回行われました。



『第1回滝の城跡公園彫刻展』カタログ

The 1st Taki-no Castle Park Sculpture Exhibition. Exh. Cat.

滝の城跡公園彫刻展実行委員会

The 1st Taki-no Castle Park Sculpture Exhibition Executive Committee

1974 | 書籍 | 個人蔵

『'78所沢野外美術展』カタログ

Tokorozawa Open-Air Exhibition 1978. Exh. Cat.

所沢野外美術展

Tokorozawa Open-Air Exhibition

1978 | 書籍 | 個人蔵

『'83所沢野外美術展』カタログ

Tokorozawa Open-Air Exhibition 1983. Exh. Cat.

所沢野外美術展

Tokorozawa Open-Air Exhibition

1983 | 書籍 | 個人蔵

『SLIP IN 所沢』

A Gapped House in Tokorozawa. Exh. Cat.

テトラハウス出版局

Tetora-House Press

1984 | 書籍 | 個人蔵

『第1回ホット・ハウス エキジビション』フライヤー

The 1st Hot House Exhibition. Exh. Flier.

1986 | 展覧会チラシ | 個人蔵

『新建築』1993年12月号

Shinkenchiku December 1993

1993 | 書籍 | 個人蔵

『所沢航空記念公園野外彫刻展』カタログ

Tokorozawa Aviation Memorial Park Open-Air Sculpture Exhibition. Exh. Cat.

彩の国元年さいたま芸術文化祭所沢市実行委員会

Saitama Art and Cultural Festival, Tokorozawa City Executive Committee

1993 | 書籍 | 個人蔵

『生涯学習情報誌 翔びたつひろば』vol. 246

Lifelong Learning Information Magazine vol. 246

2020 | 広報誌 | 所沢市



3

「引込線」から現在へ From "Tokorozawa Biennial of Contemporary Art Siding Rail Road" to The Present

2000年代の所沢市内でのアートへの動向において、アーティストによる自主企画展「引込線」（2019年は「引込線／放射線」）は、展覧会の規模の大きさや特徴から、国内における重要な展覧会の一つとして評価されてきました。西武鉄道旧所沢車両工場での2008年のプレ展示以降、2009年からビエンナーレ形式で、2年おきに計7回開催されてきた「引込線」は、参加作家や会場を変えながらも、アーティスト主導であること、統一したテーマを持たないこと、さらには次世代が育つ場であることなどの基本的な方向性が、引き継がれています。また、アーティストだけでなく、様々な領域の執筆者が、アーティストと同じ表現者として参加していることも、「引込線」を他の展

覧会と一線を画すものとして特徴づけています。「引込線」と同年の2008年、国の重要文化財である柳瀬荘（黄林閣）を会場に「柳瀬荘アート・教育プロジェクト」（第7回以降、「柳瀬荘アート教育プロジェクト」）が開始します。日本大学芸術学部と東京国立博物館の共催による本プロジェクトでは、地域に眠る文化、芸能、自然、建物から生まれるアートと教育の可能性をテーマに、8回の開催の中で、作品展示やワークショップ、舞劇、コンサート、茶会などの取り組みが行われてきました。所沢市は、「引込線」と「柳瀬荘アート・教育プロジェクト」を継続的に後援しています。

所沢市が関わった近年の国際的な取り組みの一つに、姉妹都市である韓国の安養市との「安養市海外姉妹都市作品交流展」があげられます。日本からは、戸谷成雄（1947-）、伊藤誠（1955-）ら所沢市在住のアーティスト5名が参加し、金重業博物館で展示しました。第3章では、21世紀の所沢市での「アートの潮流」の広がりを、資料を交え紹介するとともに、所沢を拠点に活動する20名（組）のアーティストたちによる多様な作品表現を、今年リニューアルオープンした所沢市民文化センター・ミュージズ ザ・スクエアと情報市場ほか屋外で展覧します。



『所沢ビエンナーレ・プレ美術展 引込線』カタログ
The pre-Exhibition Tokorozawa Biennial of Contemporary Art Siding Railroad. Exh. Cat.
所沢ビエンナーレ実行委員会
Tokorozawa Biennial Executive Committee
2008 | 書籍 | 個人蔵

『引込線2013』カタログ
Railroad Siding 2013. Exh. Cat.
引込線実行委員会
Railroad Siding Executive Committee
2013 | 書籍 | 個人蔵

『所沢市文化芸術振興ビジョン』
Tokorozawa Culture and Art Promotion Vision
所沢市市民部文化芸術振興課
Tokorozawa Culture and Art Promotion Department
2018 | 書籍 | 所沢市

『柳瀬荘アート・教育プロジェクト——地域に眠る文化・芸能・自然・建物から生まれるアートと教育の可能性——』カタログ
The Yanase Villa Art Education Project. Exh. Cat.
日本大学芸術学部
Nihon University College of Art
2009 | 書籍 | 個人蔵

『美術作家と批評家による第6回自主企画展 引込線2017』カタログ
Railroad Siding 2017. Exh. Cat.
引込線実行委員会
Railroad Siding Executive Committee
2018 | 書籍 | 個人蔵

『安養市海外姉妹都市作品交流展』カタログ
The Contemporary Art Exchange Exhibition of Overseas Sister Cities of Anyang City: This Side of Paradise. Exh. Cat.
安養文化芸術財団
Anyang Foundation for Culture and Arts
2018 | 書籍 | 所沢市

『所沢ビエンナーレ美術展2011 引込線』カタログ
Tokorozawa Biennial of Contemporary Art Siding Rail Road 2011. Exh. Cat.
所沢ビエンナーレ実行委員会
Tokorozawa Biennial Executive Committee
2011 | 書籍 | 個人蔵

『平成30年度 第8回柳瀬荘アート教育プロジェクト 仮構の空間／仮像の彫刻』カタログ
The Yanase Villa Art Education Project 2018: Spatial Resonance. Exh. Cat.
日本大学芸術学部
Nihon University College of Art
2018 | 書籍 | 個人蔵

『引込線／放射線』記録集
Absorption/Radiation. Exh. Cat.
引込線2019 実行委員会
Hikikomisen 2019 Organizing Committee
2020 | 書籍 | 個人蔵



中山正樹 NAKAYAMA Masaki

1945年山梨県生まれ
現在、埼玉県（所沢）在住

20' BODY SCALE—生命1—
20' BODY SCALE—existence 1—
2020 | アクリル、キャンバス | 194×130 cm

20' BODY SCALE—連鎖1—
20' BODY SCALE—connection 1—
2020 | ポリエステル樹脂 | 65×58×45 cm（彫刻作品）台座 92×45×45 cm

20' BODY SCALE—生命2—
20' BODY SCALE—existence 2—
2020 | アクリル、キャンバス | 194×130 cm

高見澤文雄 TAKAMIZAWA Fumio

1948年長野県生まれ
多摩美術大学絵画科油画専攻卒業
現在、埼玉県（所沢）在住

波の網、網の波より1
From Net of Wave, Wave of Net 1
2018 | 油彩、キャンバス | 162×130.5 cm

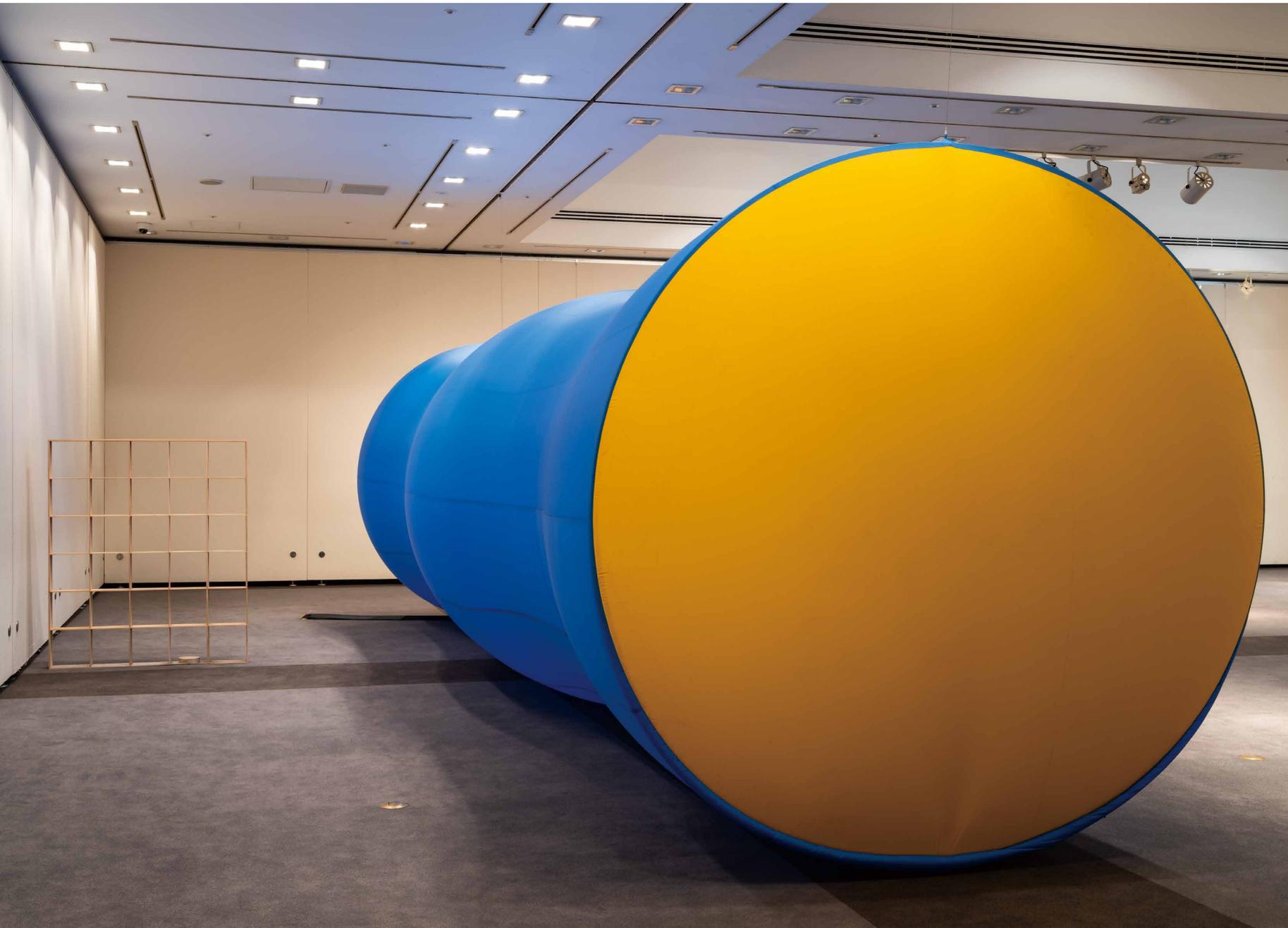
波の網、網の波より2
From Net of Wave, Wave of Net 2
2018 | 油彩、キャンバス | 162×130.5 cm

波の網、網の波より3
From Net of Wave, Wave of Net 3
2018 | 油彩、キャンバス | 162×130.5 cm

祐成政徳 SUKENARI Masanori

1960年福岡県生まれ
武蔵野美術大学油絵学科卒業、ドイツ・ミュンヘン美術アカデミー在籍（1993-94年）
現在、埼玉県（所沢）在住

Goldfish
2015 | ナイロン | 226×226×935.3 cm



志水児王 + 飯田博之 SHIMIZU Jio + IIDA Hiroyuki

志水児王 SHIMIZU Jio
東京都生まれ
東京藝術大学美術学部博士前期課程修了
現在、広島県・埼玉県（所沢）在住

飯田博之 IIDA Hiroyuki
長野県生まれ
東京藝術大学絵画科油画専攻卒業
現在、長野県諏訪市在住



崩壊音楽
Decay Music
2016 | シンチレーター、スペクトロメーター、MIDI 音源、
スピーカーなど | 113×48×67 cm

室内に置かれたシンチレーターにより展示空間を飛び交う放射線（γ線）を捉え、エネルギーの高低を平均律音階へと対応付け自動演奏させている。つまり高いエネルギーを感知した時には高い音、低いエネルギーを感知した時には低い音を奏でる。例えば東京、広島、福島、チェルノブイリといった場所によって演奏は異なり、恐らく福島での演奏は高音域が中心とした楽曲となるだろう。この様に作品が設置される場所や環境が作曲者であり演奏者となる。また放射線を感知し音楽へと変換する本作においては地球上に存在する核種の崩壊に伴い音列はやがてまばらになり終焉を迎える。恐らくこの楽曲の最後の音符を打ち込むのは減衰期の一番長い放射性元素トリウム232であり曲の長さはおよそ1400億年の長大な楽曲となるだろう。地球の地殻変動を調べると約1億5千万年前には日本海は存在せず、約1億年後は日本はユーラシア大陸に飲み込まれ日本海はふたたび消滅する。地球はアクチュアルに動いているのだ。これらの地殻変動は物理的に国という概念を根底から揺さぶるだろう。生命が誕生する遙か以前から存在し生命の進化や文明に多大な影響を及ぼしてきた放射線や地殻変動といった時間の流れの前では我々の存在はほんの一瞬に過ぎない。Decay musicは人間の知覚や感覚を遙かに超えた存在と時間芸術である平均律音階を関連付ける試みである。

森田可子 MORITA Kako

1993年福岡県生まれ
 武蔵野美術大学大学院造形研究科油絵コース修了
 現在、埼玉県(所沢)在住

Untitled
 2020 | アクリル、キャンバス | 162×130.3 cm

Butter
 2020 | アクリル、キャンバス | 162×194 cm

Ribbon
 2020 | アクリル、キャンバス | 162×130.3 cm



木谷圭章 MOKUTANI Yoshiaki

1980年静岡県生まれ
 武蔵野美術大学大学院造形研究科美術専攻版画コース修了
 現在、埼玉県(所沢)在住

船尾からの風景
 Landscape from the stern
 2020 | 版画紙、銅版画 | 70×100×4 cm

無題
 Untitled
 2018 | 版画紙、銅版画 | 70×100×4 cm

松林の中で
 In the pine forest
 2020 | 版画紙、銅版画 | 70×100×4 cm

無題
 Untitled
 2018 | 版画紙、銅版画 | 70×100×4 cm



小穴琴恵 OANA Kotoe
 1990年埼玉県生まれ
 東京藝術大学大学院美術研究科絵画専攻修了
 現在、埼玉県（所沢）在住

街中の木
 a tree in a town
 2020 | 油彩、キャンバス | 130.3×130.3 cm

木と旗
 a tree and flag
 2020 | 油彩、キャンバス | 194×130.3 cm

歩いている男と女
 a man and woman taking a walk
 2020 | 油彩、キャンバス | 65.2×53 cm

無題
 untitled
 2020 | モノタイプ | 41×32 cm

無題
 untitled
 2020 | モノタイプ | 41×32 cm

幸田千依 KODA Chie
 1983年東京都生まれ
 多摩美術大学絵画学科油画専攻卒業
 現在、埼玉県（所沢）在住

心が先についてくる
 Heart follows antecedently
 2018 | 油彩、アクリル、キャンバス | 194×324 cm



加茂 昂 KAMO Akira
1982年東京都生まれ
東京藝術大学大学院美術研究科絵画専攻修了
現在、埼玉県（所沢）在住

「福島県双葉郡浪江町北井出付近にたたずむ」のためのスケッチ
Sketch for Standing Near Kitaide, Namiemachi, Futaba District, Fukushima
2019 | 和紙、色鉛筆 | 56×44 cm

福島県双葉郡浪江町北井出付近にたたずむ
Standing Near Kitaide, Namiemachi, Futaba District, Fukushima Prefecture
2019 | 油彩、キャンバス | 194×162 cm



尹 熙倉 YOON Heechang
1963年兵庫県生まれ
多摩美術大学大学院美術研究科絵画専攻（陶芸）修了
現在、東京都在住

セーヌ川 #1414
The Seine #1414
2019 | 焼成したセーヌ川の砂、陶粉、アクリルメディウム、パネル | 100×80 cm

テムズ川 #1116
The Thames #1116
2016 | 焼成したテムズ川の砂川の砂、陶粉、アクリルメディウム、パネル | 116×116 cm

淀川 #1523
Yodogawa River #1523
2020 | 焼成した淀川の砂、陶粉、アクリルメディウム、パネル | 163×130 cm



Sand River Work

川の源流から河口までを移動しながら砂を採る。
それを画材に加工して流域の風土を描く。
その場所にしかないもので、
その場所の大切なことを描く。



撮影：中川達彦

牛島達治 USHIJIMA Tatsuji

1958年東京都生まれ
Bゼミ Schooling System 中退
現在、東京都在住

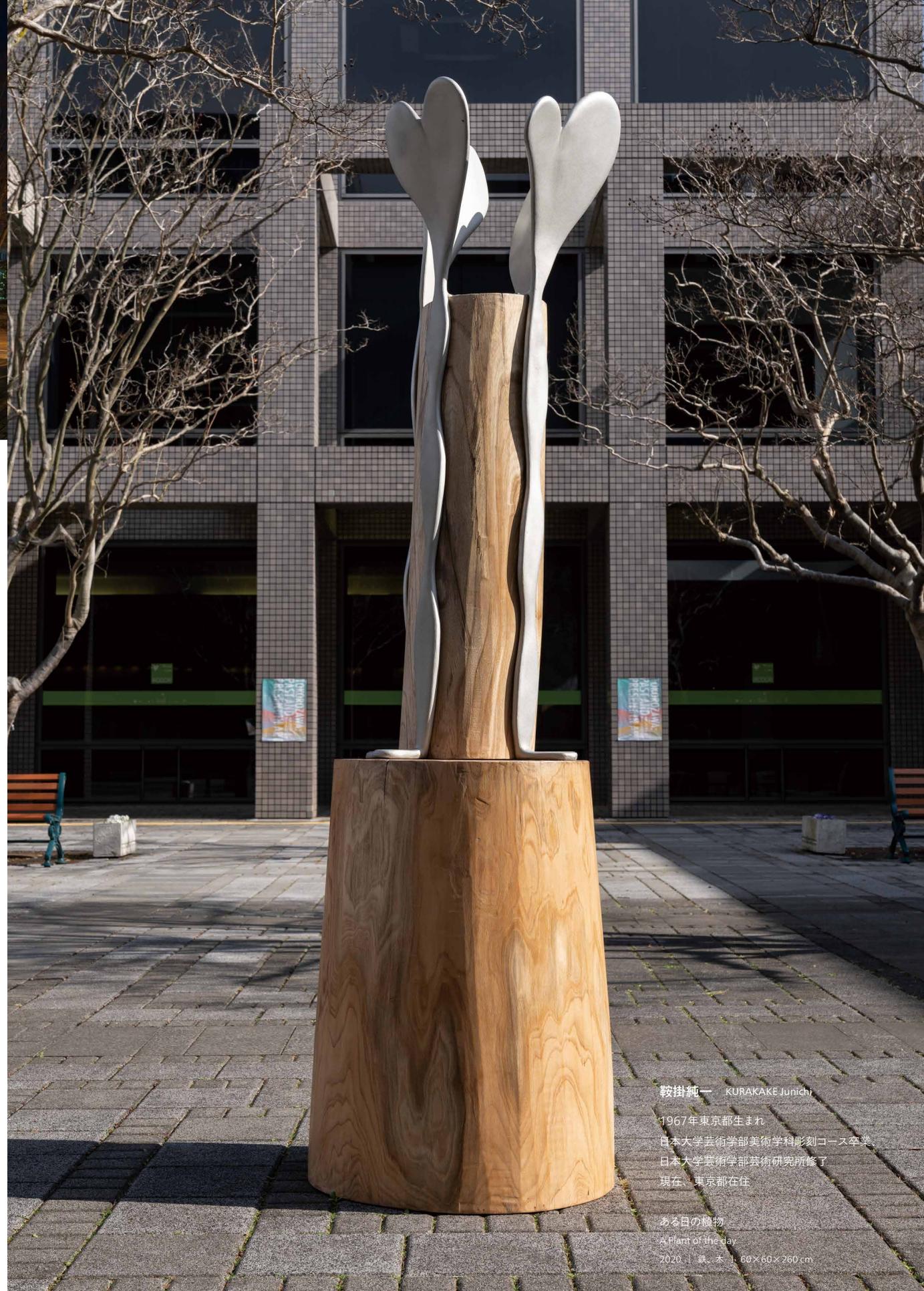
空の風車計画

sky windmill project

2013- | 鉄、アルミ、ステンレス、フィンランドパーチ合板、布、
ベアリング、ビデオカメラ、ソーラーパネル、制御機器、インターネッ
ト接続機器、ビデオプロジェクターなど | 730×Ø560 cm



YouTube 配信動画より



鞍掛純一 KURAKAKE Junichi

1967年東京都生まれ
日本大学芸術学部美術学科彫刻コース卒業
日本大学芸術学部芸術研究所修了
現在、東京都在住

ある日の糧物

A plant of the day

2020 | 鉄、木 | 60×60×260 cm



多和圭三 TAWA Keizo

1952年愛媛県生まれ
日本大学芸術学部美術学科彫刻専攻卒業、
日本大学芸術学部芸術研究所修了
現在、埼玉県在住

無題

Untitled
2000
鉄、叩く
120.4×120.4×12.8 cm

無題

Untitled
2000
鉄、叩く
121.1×121×12.7 cm

桑名紗衣子 KUWANA Saeko

1982年千葉県生まれ
武蔵野美術大学大学院美術専攻彫刻コース修了
現在、埼玉県（所沢）在住

yyyy/mm/dd の散策 #1

Stroll of yyyy/mm/dd #1
2020
セラミック・ミクストメディア / 樹木の型取り: 埼玉県狭山丘陵い
きものふれあいの里センター協力
147×30×92 cm

yyyy/mm/dd の散策 #2

Stroll of yyyy/mm/dd #2
2020
セラミック・ミクストメディア / 樹木の型取り: 埼玉県狭山丘陵い
きものふれあいの里センター協力
147×30×92 cm





坂牛幹雄 SAKAUSHI Mikio

1949年青森県生まれ
日本大学芸術学部彫刻科卒業
現在、埼玉県(所沢)在住

ハザイ
Hazai
2020 | 木材 | 100×1000 cm

戸谷成雄 TOYA Shigeo

1947年長野県生まれ
愛知県立芸術大学大学院彫刻専攻修了
現在、埼玉県(所沢)在住

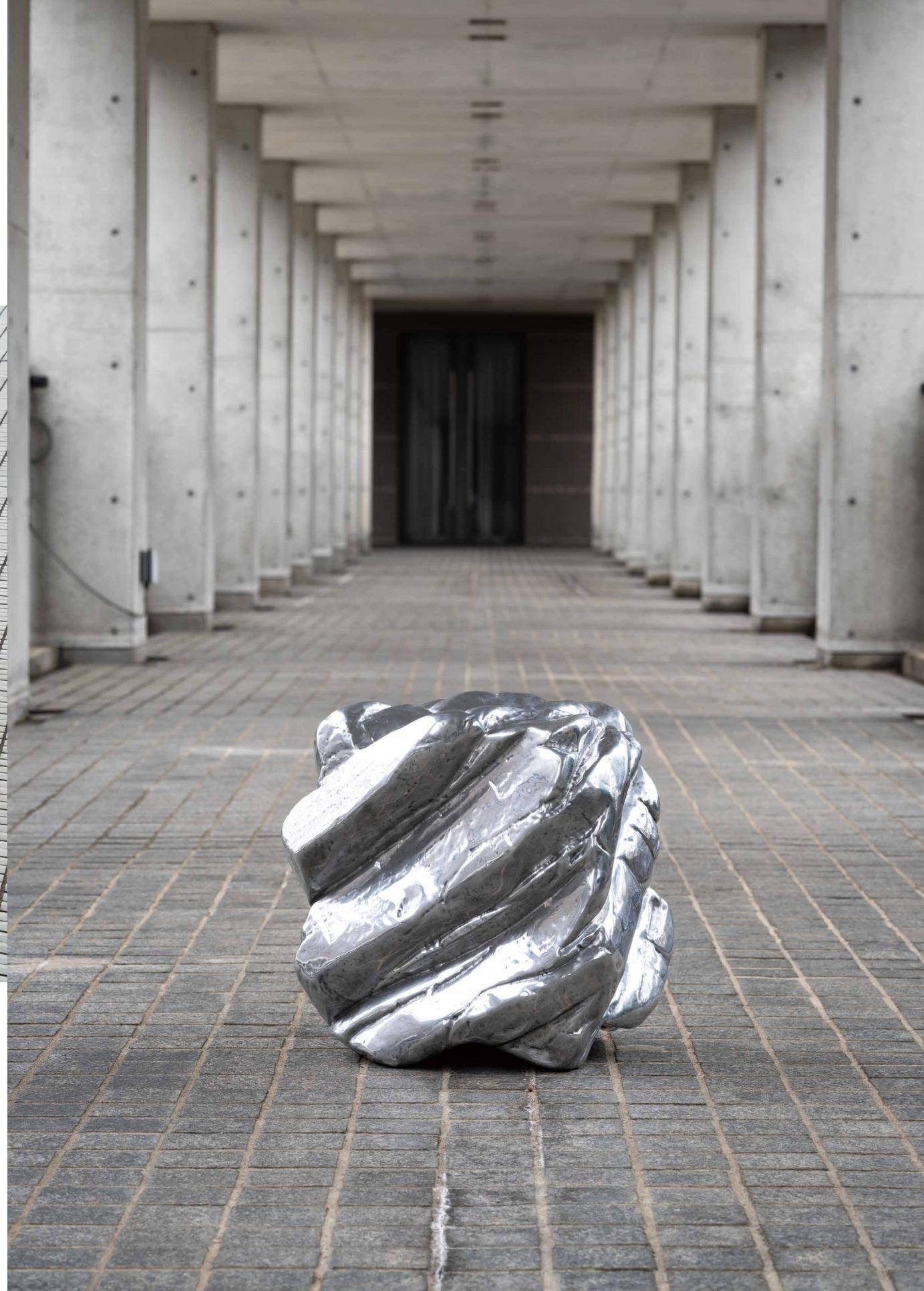
けもの道II
Animal Track II
1989 | ブロンズ | 41×631×24 cm



多和英子 TAWA Eiko

1952年熊本県生まれ
日本大学芸術学部美術学科彫刻専攻卒業、日本大学芸術学部芸術研究所修了
現在、埼玉県在住

ウツの天日干し
Sun Dried Depression
2020 | 鉄、鉄板を熱で曲げ加工、アーク溶接 | 180×160×20-30 cm



小畑多丘 OBATA Taku

1980年埼玉県生まれ
東京藝術大学大学院美術研究科修士課程彫刻専攻修了
現在、埼玉県(所沢)在住

BUTTAI
2020 | アルミニウム鑄造 | 50×40×50 cm

1955年愛知県生まれ
武蔵野美術大学大学院造形研究科彫刻コース修了
現在、埼玉県(所沢)在住

Boat: mu-20-5

2020 | バルブボードボックス・スリム・2段/ベージュ、立てられるジヨウロ、肩の負担を軽減する撥水リュックサック、アルミ角型ハンガーフレーム型・26ピンチ、アルミ洗濯用ハンガー3本組み、ステンレス | 協力: MUJI com 武蔵野美術大学市ヶ谷キャンパス | 装着型のため可変

Boat: mu-20-4

2020 | ステンレス平ザル 直径22.5 cm、アルミハンガー・ネクタイ/スカート用、アルミハンガー・パンツ/スカート用、ダブルリングノット、ステンレス | 協力: MUJI com 武蔵野美術大学市ヶ谷キャンパス | 装着型のため可変

Boat: mu-20-1

2020 | アルミ角型ハンガーフレーム型・26ピンチ、ステンレスバット・大、ステンレス | 協力: MUJI com 武蔵野美術大学市ヶ谷キャンパス | 装着型のため可変

Boat: T-13

2013 | ステンレス、竹、銅、ゴム、シリコン、エポキシ樹脂、ポリエステル樹脂、他 | 装着型のため可変

Boat: S-13

2013 | ステンレス、竹、銅、ゴム、シリコン、エポキシ樹脂、ポリエステル樹脂、他 | 装着型のため可変



1950年岐阜県生まれ
名古屋造形芸術短期大学彫刻科卒業
現在、埼玉県在住

空洞説—現象

Void - Phenomenon
2020 | 合板、鏡、鉛筆など | 200×300 cm





市制施行70周年記念事業
ところざわアートの潮流
2021年3月

編集・発行

所沢市 市民部 文化芸術振興課
〒359-8501 所沢市並木一丁目1番地の1
TEL 04-2998-9211 (直通) FAX 04-2998-9491
E-mail a9211@city.tokorozawa.lg.jp

編集協力

前山裕司 (所沢市美術館館長)、森 啓輔 (所沢市美術館学芸員)

デザイン

熊谷篤史

撮影

加藤 健、中川達彦 (p.20)

写真提供

牛島達治 (p.20)

印刷・製本

株式会社トネ

市制施行70周年記念事業 とくろろわわアートの潮流

所沢市市民部文化芸術振興課

〒359-8501 所沢市並木一丁目一番地S-1

TEL 04-2998-9211 FAX 04-2998-9491 E-mail a9211@city.tokorozawa.lg.jp



TOKOROZAWA: PAST AND PRESENT IN ART
The 70th Anniversary Memorial Project of Tokorozawa City

